

## 格差問題を通して社会を分析する力を養う授業実践

- 1 校種・教科・科目（分野） 中学校・社会科・公民的分野
- 2 単元名 財政及び社会保障制度の意義と役割
- 3 学習指導要領上の位置付け B 私たちと経済（2）国民の生活と政府の役割
- 4 カリキュラムマップとの関連性 科学技術と社会の発展 平和で安全な社会
- 5 単元目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
財政に関する憲法の規定、財政の仕組み、租税の種類と意義、財政政策の機能、日本の財政の現状などについて理解させる。	財政政策や租税の影響力を多面的多角的に考察し、格差を捉え表現することができるようになる。社会状況を可視化・数値化してとらえる手法を身に付ける。	財政政策の効果について主体的に考察し、日本の財政が持つ諸課題について関心を持ち、未来の社会について考える意欲を持たせる。

### 6 単元の特徴

日本で財政危機が叫ばれて久しく、マスメディアを賑わせることが多いこともあり、財政問題をまったく聞いたことがないという生徒はほとんどいない。その一方、財政赤字の拡大ばかりを耳にするだけで、そもそも財政の活動が私たちにどのように影響を与えるのか、所得再分配政策は国民生活の維持や向上にどのような貢献をしているのかというような点で、本質的な理解ができていない生徒も多いのが現状である。財政政策は様々なルートを通じて我々の生活に大きな影響を与えるのであり、家計や企業とは異なる性質を持っていることから、それを理解することは主権者として欠かせない教養である。

そこで本単元では、租税の意義や財政政策の基本的な仕組みについて取り上げ、財政が私たちの社会に果たしている役割と現状について理解させる。さらにデータなどに基づくエビデンスと、ジニ係数などのフレームワークを用いて、未来のあるべき財政政策について考える資質を身に付けるよう指導していく。カリキュラムマップにおいては、「国民の生活と政府の役割」における「少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」および「財政及び租税の意義」に該当する実践である。

本単元では生徒が財政問題・少子化問題に対して主体的に学び、課題に意欲的に取り組む姿勢を身に付けることを目指している。そのための知識・技能として、予算、歳出・歳入、公債など財政の基本的な仕組みや、直接税と間接税の違い・累進課税（累進性）と逆進課税（逆進性）の違いなど租税の基本的知識を取り扱う。

またジニ係数・ローレンツ曲線について理解し、正しい値を算出することができるように指導するが、これは社会状況を可視化・データ化する手法の習得によって数値に基づいて現状を分析し明確な根拠をもとに自分の意見を考える、という姿勢を育むこと目指している。そうすることで印象論ではなく、事実に基づいた冷静な議論を通じて、前向きに合意形成に取り組む主権者の育成につながるだろう。SNS の普及によりエビデンスに基づいた冷静な議論ができる能力は、必要不可欠と言えるだろう。

## 7 単元計画

時間	各時の問い	
	学習テーマ	学習内容
1 時間	財政はどのような役割と機能を持っているか。	
	財政の役割	日本国憲法第 86 条について、歳入と歳出の現状、予算の種類、財政政策の機能
1 時間	租税の種類と仕組みはどのようなものか。	
	租税の種類と仕組み	直接税と間接税・国税と地方税の違い、租税の種類、直間比率、源泉徴収
1 時間	所得税と消費税の特徴は何か。	
	所得税と消費税	所得税の累進課税制と課税所得の計算、消費税の逆進性について
1 時間	日本の財政が持っている課題とはどのようなものか。	
	財政の現状と課題	建設国債と赤字国債の違い、国債発行残高の推移、消費税の歴史、税制改革、プライマリーバランス
1 時間	財政面から考えて日本はどのような社会を目指すべきか	
	これからの財政 (本時)	ジニ係数とローレンツ曲線、日本の格差の現状、所得再分配政策の効果

## 8 カリキュラム・マネジメント（その可能性）

本実践では、ローレンツ曲線からジニ係数を導き出す手法について取り上げることから、主に数学と関連付けたカリキュラム・マネジメントが考えられる。たとえば中学校学習指導要領第二章各教科第 3 節数学における「第 2 各学年の目標及び内容」の「第 1 学年 内容」では、「B 図形」において(1)平面図形について、・・・次の事項を身に付けることができるよう指導する」としてイ(ア)では「図形の性質に着目し、基本的な作図の方法を考察し表現すること」とある。ローレンツ曲線と 45 度線で作られる図形の面積がジニ係数になることから、数学におけるこの単元の学習と関連させることができるだろう。

そして、直接的に 1 次関数を利用することはないが、45 度線の意味の理解のために、第 2 学年の数学で扱う 1 次関数の考え方（中学校学習指導要領第二章各教科第 3 節数学第 2 各学年の目標及び内容第 2 学年内容 C 関数）も、本実践で役に立つだろう。

## 9 本時の授業展開

### (1) 本時について

単元のまとめの授業として、日本社会の格差をもとに、ジニ係数とローレンツ曲線というフレームワークを使って、未来のあるべき社会の姿と財政政策について考えさせる授業を実践する。

ジニ係数とローレンツ曲線は中学レベルを超えるものであるが、社会的事象を感覚的ではなく的確にとらえるためには、具体化・数値化するという姿勢が**望ましい**。そして格差問題の分析においてジニ係数を用いるということは、一般的な手法である。そのため難易度が高いとはいえ、取り上げる意義はあると考え、本時で実践する。

### (2) 本時の目標

ア 格差問題について学ぶことの重要性と所得再分配政策の効果について理解する。【知識・技能】

イ 意見を持つ際に、漠然と考えるのではなく、数値化したりデータを確認したりするなど、エビデンスに基づいて考えることができる。【思考力・判断力・表現力】

ウ ジニ係数・ローレンツ曲線を理解し、格差を捉える手法を身に付ける。【知識・技能】

エ ウで身に付けた方法を用いて、日本の格差の現状を的確にとらえ、あるべき未来について考えて、自分の言葉で表現**することができる**。【学びに向かう力・人間性】

### (3) 評価基準

評価項目	A 十分満足できる	B おおむね満足	C 努力を要する
格差の捉え方	ジニ係数とローレンツ曲線について、適切な計算と図示ができている。	ジニ係数とローレンツ曲線について、計算か図示の一方は適切にできる。	ジニ係数とローレンツ曲線についてどちらも適切な結果を導くことができない。
所得再分配政策の意義について	所得再分配政策について、その意義と効果を理解している。	所得再分配政策について、大まかな理解ができている。	所得再分配政策がどのようなものか、理解できていない。
日本の財政のあるべき未来について	自分の意見を、エビデンスに基づき論理的に表現できる。	自分の意見を論理的に表現できているが、エビデンスにもとづいていない。	自分の意見がエビデンスに基づくことなく、論理的でもなく表現されている。

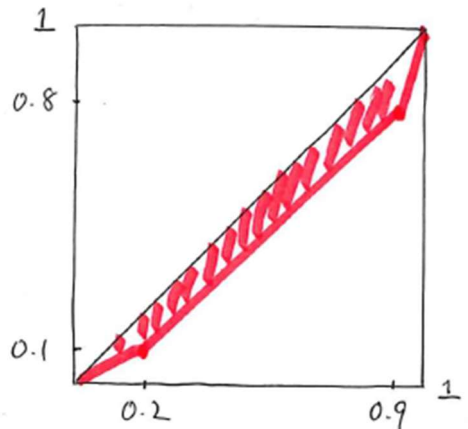
(4) 本時の展開

	○主な学習内容 ☆生徒の学習活動 枠内は教員による発問	教員の留意点・資料など
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時のテーマ 格差の問題について</li> <li>○ 2019年のアメリカでは、所得上位10%の人が所得全体の約45%を保有していることを理解する。また下位50%の人々が保有する所得の割合が低下傾向にあること。一方で世界最大の経済大国であること。</li> </ul>	スライド2を用いて、グラフを示す。
展開① (7分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>「平等性の強い社会」と「格差はあるが全体的に豊かな社会」のどちらを望みますか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 所得の配分と総所得が異なる4つの社会状況について望ましいと考える選択肢を選び、理由を答える。</li> <li>☆ グループで話し合い、意見を分かち合う。</li> </ul>	スライド3を使用。 所得分配が平等であれば総所得は少なくなり、格差があれば増加していく、という点を説明する。
展開② (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ジニ係数・ローレンツ曲線について プリントの例を用いた教員の説明を聞き、ジニ係数とローレンツ曲線について学ぶ。</li> <li>☆ 左記の4つの社会状況について、ローレンツ曲線を描き、ジニ係数を算出する。</li> </ul>	スライド4～9 例のジニ係数は0.17。 それぞれのジニ係数は(1)0 (2)0.15 (3)0.38 (4)0.74
展開③ (5分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>格差を数値化することができました。これをふまえて、もう一度4つの社会状況のうちどれが望ましいか、考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 再度、所得の配分と総所得が異なる4つの社会状況について望ましいと考える選択肢を選び、理由を答える。</li> <li>☆ グループで話し合い、意見を分かち合う。</li> </ul>	スライド10を使用。 数値化したことで考え方に変化が生じたか、意識させるとよい。
展開④ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本のジニ係数の推移を理解する。</li> <li>※日本のジニ係数は再分配前が0.5594、再分配後が0.3721</li> <li>☆ 日本のジニ係数の推移をふまえ、4つの社会状況と比較してみる。</li> <li>○ 所得再分配後のジニ係数をふまえて、所得再分配政策の効果と重要性を理解する。</li> </ul>	スライド11～13を使用。 日本の財政における歳出のグラフ・国債残高の推移・少子化についてのグラフを示し、歳出の在り方について考えさせる。

<p>まとめ (10分)</p>	<p>○ ローレンツ曲線とジニ係数に関して理解しているかの確認および日本のジニ係数について感じたことを書く。また、日本の社会と財政政策のあるべき姿について論じる。</p>	<p>スライド 14 を使用。 振り返りシートの回収をする。</p>
----------------------	---	--

(5) 本時の資料など

① 本稿 P.6 (6) 本時の配布プリントの2の例を用いた、教員によるローレンツ曲線



② 本時で用いるスライド

**格差社会と財政を考える**  
令和4年10月4日 (火) 4時開講 中学社会 (公民的分野)

**アメリカ社会の格差**

アメリカにおける所得階層別の所得シェア率の推移

2

**4つの社会状況のうちふさわしいのはどれ？**

- 設定にはどのような規則性があるか考えてみよう。
- 自分が社会の一員であると想定して、自分の問題として考えよう。

3

**ローレンツ曲線とジニ係数について学びましょう！**

- プリントの「人口100人の村」の例を使って説明します。
- 所得の低い人から順番に並び、並んだ人の所得を積み上げていくイメージです。

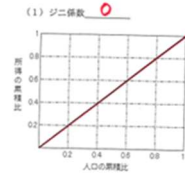
4

次に自分でやってみよう！

やってみよう！

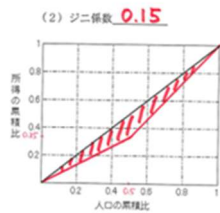
- (1)と(2)のローレンツ曲線を描き、ジニ係数を算出してみよう！！
- (3)と(4)のジニ係数は教員から発表します。

(1)のローレンツ曲線とジニ係数



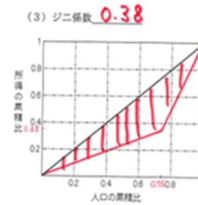
完全に平等の場合は、人口の増加と所得の増加が同じペースになるので、45度線とローレンツ曲線は一致します。

(2)のローレンツ曲線とジニ係数



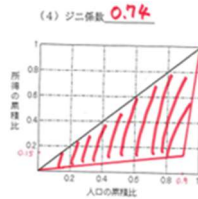
22億円のうち下位100人が7.7億円持っているということなので、 $7.7 \div 22 = 0.35$   
つまり下位50%で35%の所得を、残りの上位50%が65%を持っているということ。

(3)のローレンツ曲線とジニ係数



24億円のうち、下位150人が9億円持っているということなので、 $9 \div 24 = 0.38$   
つまり下位75%で38%の所得を、残りの上位25%が62%を持っているということ。

(4)のローレンツ曲線とジニ係数



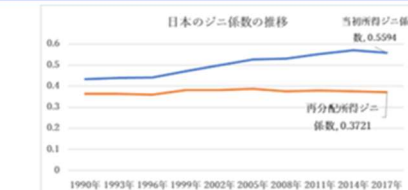
27.2億円のうち、下位180人が5.4億円持っているということなので、 $5.4 \div 27.2 \approx 0.15$   
つまり下位90%で15%の所得を、残りの上位10%が85%を持っているということ。

格差の可視化・データ化ができました！



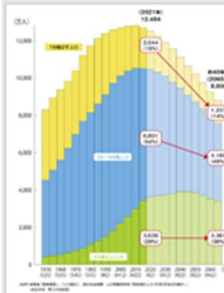
- 計算したジニ係数をふまえて、もう一度、(1)～(4)のうちどれが望ましいと思うか、考えてみよう！
- 選択が変わった人はいますか？データや新しい事実を見て意見を変えることは、何の問題もありません。様々な情報をもとにして、自分で考えて答えを出すことが大切です。

では日本のジニ係数は？



資料：厚生労働省政策統括官付政策立案・評価担当事務局「所得再分配調査」より作成  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/kousei/19/baocdata/01-01-08-09.html>

しかも進行する少子高齢化



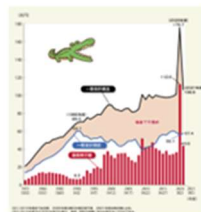
つまり、これまでは財政による所得再分配機能が動いて、ジニ係数の強い上昇は見られなかった。それでは、今後も同様だと考えて大丈夫だろうか？  
新しい対応が必要だとすれば、社会の格差と財政政策はどうしていくべきだろうか？  
出典：財務省のサイト

今後も同じレベルの所得再分配は可能？

最も多い財政支出は社会保障費



増える国債発行



出典：財務省のサイト

Good your work ! !

最後に振り返りシートを記入・提出してください。



(6) 本時の配布プリント

## 格差社会について考える

1. 人口が 200 人の社会を想定します。以下の 4 つの社会状況のうち、あなたが望ましいと思うのはどれですか？理由とともに答えなさい。

(1) 200 人すべての人が 1000 万円の所得 ⇒ 所得合計 20 億円

(2) 上位 50%の人 100 人が 1430 万円の所得、それ以外の 100 人が 770 万円の所得  
⇒ 所得合計 22 億円

(3) 上位 25%の人 50 人が 4000 万円の所得、それ以外の 150 人が 600 万円の所得  
⇒ 所得合計 29 億円

(4) 上位 10%の人 20 人が 1.5 億円の所得、それ以外の 180 人が 300 万円の所得  
⇒ 所得合計 35.4 億円

番号 ( )

理由

2. ジニ係数とローレンツ曲線

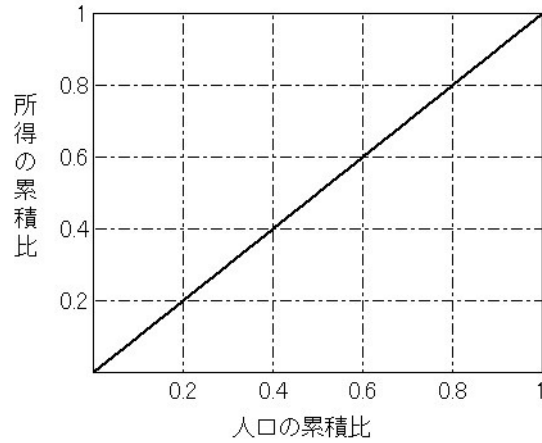
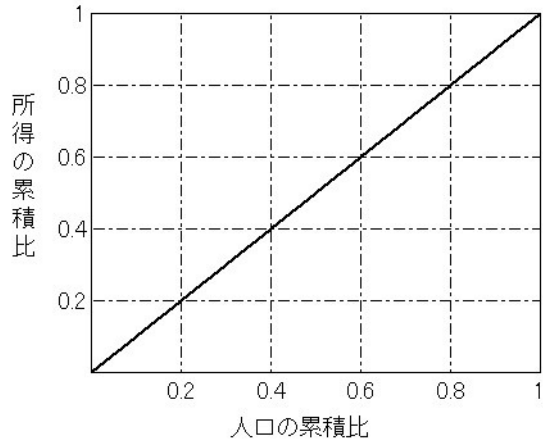
【例】人口 100 人の村があり、すべての所得を合わせると、100 万円です。

そしてその村では、20 人が 10 万円、70 人が 70 万円、10 人が 20 万円を持っています。

3. 1の(1)と(2)の社会状況についてローレンツ曲線を描き、格差の大きさを図示しなさい。また、ジニ係数を計算しなさい。

(1) ジニ係数 \_\_\_\_\_

(2) ジニ係数 \_\_\_\_\_



(3) のジニ係数は? \_\_\_\_\_

(4) のジニ係数は? \_\_\_\_\_

4. もう一度、(1)～(4)のうちどれが望ましいと思うか、考えてみよう。

番号 ( )

理由	
----	--

5. 日本のジニ係数はどのくらいか予想してみよう。

( )年 ( )組 ( )番 名前 \_\_\_\_\_



## 格差社会と財政を考える 振り返りシート

問1 次の文章の空欄にあてはまる語句として、正しいものを選び、解答欄に答えなさい。

(1) 45度線とローレンツ曲線で囲まれた部分が大きければ大きいほど、格差が①【小さい 大きい】ことをあらわす。

(2) 45度線は②【皆が同じ所得であること 所得の差が最大であること】をあらわす。

(3) ジニ係数は最小値が③【0 1 10 100】、最大値は④【0 1 10 100】である。

①	②	③	④
---	---	---	---

問2 日本のジニ係数について、どう感じましたか？

問3 格差の面における政府の役割や、これからの日本の社会のあるべき姿について論じなさい。

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 名前

---

## 10 生徒の学習成果とその評価（授業）

令和4年10月4日に実践し、振り返りシートを授業中に記入・提出させるとともに、Google Formを使ってアンケートも行った。

前ページにある通り、振り返りシートの問1では、基本的理解を確認する問いを4つ出している。最初の2つは図の性質を、後半の2つはジニ係数の性質を問うた。正答率を見ると最初の3つは100%、最後の問いのみ92.3%となり、本時の目標の1つである「ローレンツ曲線・ジニ係数を理解させること」は実現できたと言ってよいだろう。Google Formでも5段階で理解度を確認したが、すべての生徒が3以上を答えた（ローレンツ曲線とジニ係数について1を分からなかった・5を理解できたとして5段階で理解度を聞いた）。このことから目標を達成できたと判断してよいだろう。

振り返りシートの問2では日本のジニ係数に対する受け止め方を確認したが、「思っていたよりも日本は格差が小さいと感じた」という趣旨の回答が多かった。また「国によって下げられているにもかかわらず0.3を上回っているのは少し大きすぎると感じました。」という回答もあったが、これに見られるように、データに基づいて具体的に考察する姿勢が見られた。数値化により現実の格差のあり様をよりはっきりと捉えることができたといえるだろう。

問3では政府の役割や、日本社会のあるべき姿について論じさせたが、財政政策や社会保障制度を含めてトータルに論じることができている回答が多く、未来の主権者として自分で考え自分の言葉で表現することができていた。

自由記入で授業の感想を聞いたところ、「日本のジニ係数が上昇していくのを見てこれからの日本に危機感を覚えた。」「社会での格差を数値化することで現在の社会をわかりやすくできると知り、数学の利便性について感じた。」「最初は慣れない計算が難しく感じたが、最後は理解することが出来た。ジニ係数という指標で所得の格差を表せるということは今日初めて知った。普段習わないような内容だったため楽しかった。」など、本時の目標を達成できたと感じる回答が多かった。

## 11 「18歳市民力」育成に向けての提案

本実践では、数学の授業で学んだことを利用して社会問題を捉える、ということを導入した。また、漠然と考えるのではなく、数値化・データ化して問題を捉えるということの重要性を伝えることもねらいとしていた。

このような数学的に社会問題を考察するという姿勢は、SNSの利用が広がり、フェイクニュースや根拠のない議論が蔓延するデジタル社会を生きる生徒たちにとって、必要不可欠なものではないだろうか。

自らの根拠を数値やデータをもとに明確化し冷静に議論する、という姿勢の大切さを訴えていくような授業を提案したいと考えている。

なお授業において筑波大学附属中学校の升野伸子副校長にご見学いただき、授業へのアドバイスおよび本原稿の執筆に関する助言をいただいた。謝意を表したい。

横山省一（本郷中学校・高等学校）